

ふたたびツチグリについて



この「山と花のたより」78号で茸のツチグリを取り上げ、その文中で「食べられないそうです」と書きました。手元の図鑑では「不食」と書いてあったからです。

ところが、インターネットで検索し、調べてみると日本でも外国でも食べているようです。但し写真のように地上に出る前の幼菌を掘り出して食べるそうです。

私も茸に詳しい人に相談して食べてみたいと思っています。食後の感想は「たより」に載せます。

二上山雌岳と岩屋峠の間で3月はじめにみかけたツチグリ

ツチグリの別名は地方でのものを含めて、土柿、ツチダンゴ、キツネノダンゴ、マイマイダンゴ、マメダンゴ、ケコロ、ケコロナバなど沢山あり、庶民に親しまれている身近な茸なのですね。

木に寄生する木 ヤドリギ (ふれあい広場3月号より転載。一部加筆)

吉野山を冬訪れると、名物の桜の木が葉を落として、桜の林ごしの景観を楽しめます。そして、注意深く見ると桜の木の枝に其処だけみどりの葉を茂らせた球形の部分があちこちで見つかります。冬枯れの木に緑の枝葉があるなんて、不思議ですね。

これはヤドリギ(寄生木)という植物でサクラに寄生し、サクラの幹に根を食い込ませて、養分や水分を横取りして生活しているのです。自らも光合成をして栄養をつくりますから、半寄生ですね。サクラ以外でもエノキ、ケヤキなど落葉樹に寄生します。

さらに不思議なのは、このヤドリギは木から木、枝から枝へと点々と仲間を増やすのです。どうやって飛び移るのでしょうか。答えは「鳥によって運ばれる」です。

ヤドリギの実は11月～12月に黄色く熟しますが、それは粘着質の粘液に包まれ、それを食べた小鳥の糞として排出される時、木の枝や幹に付着するのです。

この木の不思議な生態は人々にあがめられ、ヨーロッパではクリスマスの飾りにされ、ヤドリギの下でキスしたカップルは結ばれて末永く幸せになると言い伝えられているそうです。そういう願いを持つ方はチャレンジなさってははどうでしょう。ただし結果についての責任は負えません。

ヤドリギは二上山や葛城山でも見られますが、御所市役所前の対岸、鴨都波神社境内、橿原市雲梯町曾我川西岸、高田市大中公園などの高木の梢にも夫々茂っています。花期は1～2月。茎や葉は刻んで腰痛や膝痛の漢方薬の原料にするそうです。



サクラに寄生したヤドリギ(二上山で)



二上山アケボノアシビ



補修すすむ岩屋峠への道

岩屋峠から祐泉寺に下る道が広げられ、丈夫な階段が補充されつつあります。道を狭めていた切り株も取り除かれ随分歩きやすくなりました。

この道は太子町の十河さんがコツコツと補修を続けてこられたところですが、少し傷んできたので、その事業を引き継ぎつつ地元の方の松下さん、中西さん、香芝市の河島さんらが「高齢者にもやさしい二上山に」と作業を進めているものです。

本当にご苦労様です。

左の写真はフキノトウ

以上82号